

1995年 2月 23日

ニューヨーク 禪堂 正法寺 禪スタデイソサイエティ  
嶋野栄道老師 住持

親愛なるせいがん、

貴方の“千日”行の承認は、貴方個人の問題ではありません。これは、仏教徒僧侶の修行の承認であり、主として禪堂の問題です。これは、僧が得た成果を啓示し、彼の修行の性質を明示するものです。それで貴方は千日行を終えた結果、どのような僧になったのでしょうか？

貴方は、この個人の祝賀記念会を行う際、住持の許可を受けておりません。知客寮としての貴方の地位は他の誰よりも高いもので、丁度母の家に居るかのごとく大菩薩を自由に使用する特権があるとも思っているのでしょうか？そして、貴方の気に入った友達を選んで招待して、当然ながら、貴方にとって特別なこの成就を祝うと言う事は、“僧として”、一体何を表しているのでしょうか？貴方の“招待者のみ”と言う表現は、僧伽において最も基本的な、仏教徒としてあるべき心構えを無視しているか、それとも、仏教の全て、第三の宝石の意味を理解していないではありませんか？これを、さておくとして、先ず敬意の問題はどのようになっているのでしょうか？感謝と言う問題はどのようになっているのでしょうか？師を敬い、さらに師の妻を敬うと言う事は？正法寺の名において得度をうけている人々に対する敬意はどうなっているのでしょうか？そして貴方が得度を受けた時、用意された黒い袈裟と進呈物に対する感謝は？貴方が正法寺へ来たばかりの頃、あなたを支持し、常に親身になってくれた人々の事は？そして不注意にも貴方は忘れていますが、大菩薩へ移る前、貴方自身、何年も修行した、金曜の夜のサマンの初心者教室に対する感謝は？

高が、千日行ぐらゐの招待状、我欲の見栄でしかなく、これは僧にとって名誉でも何でもなく、僧伽の、特に招待されなかつた理事会のメンバー、NYZの指導者、正法寺の得度を受けている人々の顔に貴方は平手打ちを食わせたようなものだと言えます。僧堂を、許可無く、貴方自身の目的で使用する事は傲慢であり、如何なる僧であっても僧として成すべき事ではなく、とりわけ、未熟な僧にあつては、格別そう言えます。大菩薩禪堂は貴方の個人祝賀のために建てられたものではありません。

よく考えて、全修行を初めからやり直し、“臨済僧”のあるべき姿を再考慮するよう望みます。注意深く進歩して、眞の仏道の実現を望みます。

合掌

署名

嶋野 Y. 愛法 理事  
ニューヨーク禪堂正法寺

署名

僧、サマン ソドウ  
ニューヨーク禪堂正法寺

CC : 嶋野 T. 栄道老師 / 大菩薩禪堂住持  
大菩薩禪堂一同